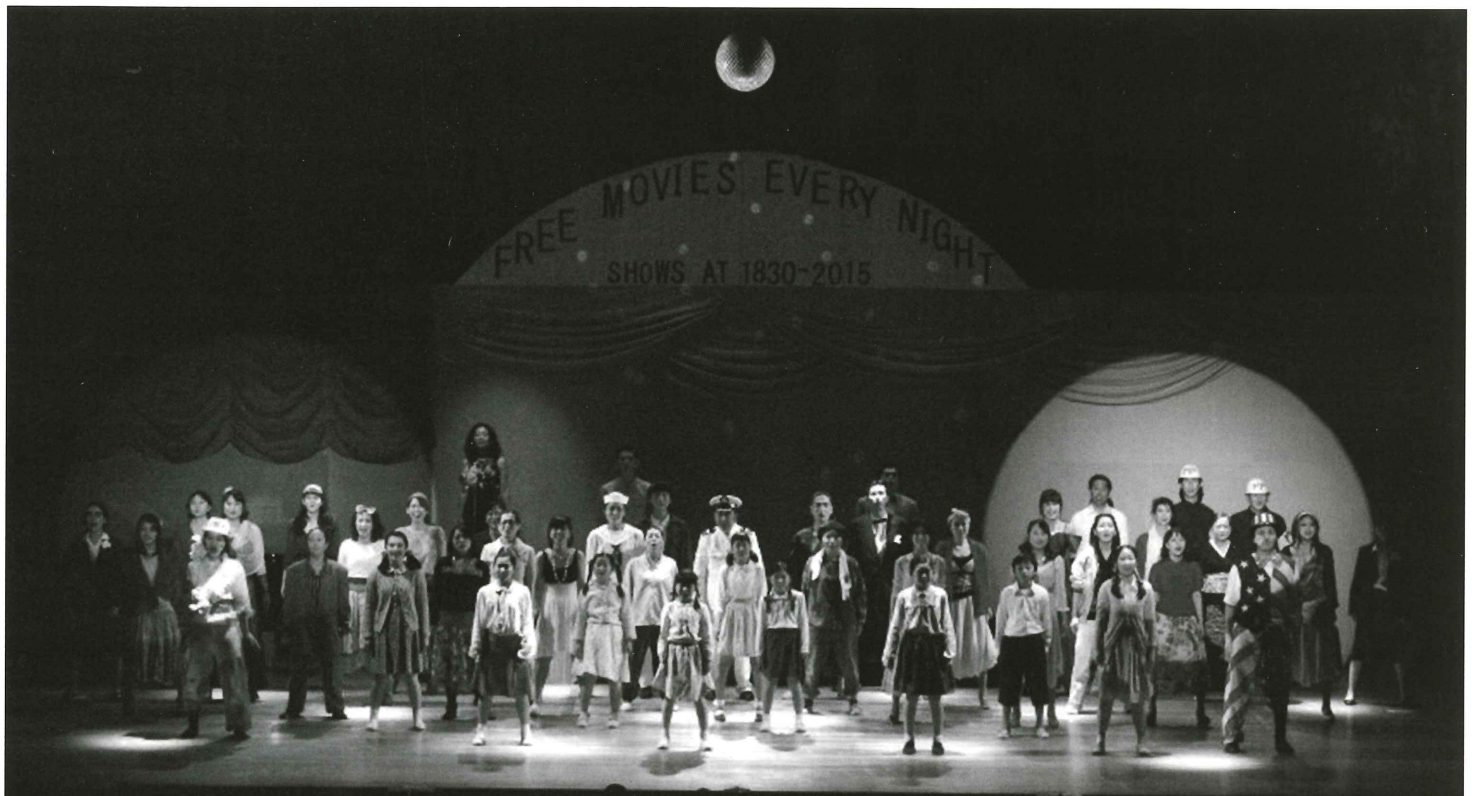


# DRAMA かながわ 72

神奈川県演劇連盟事務局：神奈川県横須賀市米が浜通1-3 Tel.045-263-4472



## 横浜に横須賀の風が吹き荒れた

EMクラブ 神奈川県演劇連盟合同公演

2015年2月28日(土)、3月1日(日) 神奈川県立青少年センターホール

### 合同公演「EMクラブ」を終えて

劇団河童座 横田和弘

キャスト47名。スタッフを合わせると60名近くの大所帯。どうやら無事に、3月1日に千秋楽の幕を降ろすことが出来た。

集客数948名(半券数)アンケート回収率42%(感想欄白紙を除く)(アンケート良しとする感想94%)収支、若干の黒字。

以上が、公演後の集約。結果を見るとまあまあの成果だったと言えるのかもしれない。ただその成果を喜んでだけはいられない、色々な合同公演の長所・短所も出た公演だったような気がする。考察してみたい。

先ずは、作品の評価としては、旧アメリカ軍慰安施設「EMクラブ」をキャストの半分以上が知らなかったほどなので、改めて「EMクラブ」を知ったとの

アンケートが多かった。高齢者には、昔の「EMクラブ」や戦後の想い、ジャズへの郷愁などへの共感が多かった。嬉しかったのは、当時「EMクラブ」で働いていた人が(虚飾の中で…)「外は、こんなだったのか…戦後70年たって初めて知った…」と語ってくれたことだ。若い人たちからは「横須賀を初めて知った気がする…」「忘れてはいけないことがたくさんあることを感じさせられた」との声が多かった。また「まだ甘い、きれいごとすぎる」「説明が多すぎる」「盛り込み過ぎ、説教くさい」のご意見も頂いた。

合同公演の楽しみは、たくさんある。まずは、一言でいえば単独劇団では出来ない醍醐味だ。大人数の芝居。大きな舞台。特に青少年センターの回り舞台は大きな魅力だ。多くの演劇人との出会い。今回は、神奈川県演劇連盟傘下の役者より公募で集まった人たちや横須賀市民ミュージカルのメンバーの方が多かった。





反面、大きな舞台、大人数の芝居創りの難しい問題  
さも多く感じた。

まずは、集客である。948名は、単独劇団の集客  
数としては悪い数字ではないと思う。しかし、劇場の  
キャパシティーからすれば3回公演の芝居としては決  
して多くない。満席感には程遠い。しかも、河童座だ  
けの集客力では、この数字は難しい。今回は、特に題  
材が「横須賀EMクラブ」のせいかわェイ感もあり  
KAATの「劇王」の企画とブッキングしたために苦  
労をした。

集客を伸ばすのに一番の特効薬は、キャストの数を  
増やすことである。だから合同の名前だけでなく大所  
帯の芝居が多くなる所以である。多くのキャストでの  
芝居創りは、楽しいが苦労も多い。

苦労の一番大きいことは、稽古である。単純に大き  
な稽古場が必要になる。今回は、ある幼稚園が、稽古  
場をほぼ全面的にバックアップしてくれたので本当に  
助かったが、もしその協力が無かったら、どうなって  
いたのか…。

さらに問題は稽古場での足並みがそろわないこと  
である。大人数なので仕方がないと言えばそれまでの  
だが、今回、全員が揃ったのは、ゲネリハが初めてと  
いう状態であった。一つの理由にキャストが自分たち  
の公演を抱えていたり、他の芝居との出演を兼ね、な  
かなか足並みがそろわないことだ。そのため、どうし  
ても緻密な稽古が出来なくなる。反省。

最近、役者が、複数の芝居の掛け持ちをする状況が  
多くみられる。果たして…。

そして、いろいろな集団から集まってくる役者にそ

れぞれに見せ場を…との想いで、無理に余計なシー  
ンをつい作ってしまう。お祭り気分は、観客には失礼な  
話だ。反省。

さらに、スタッフワークのことがあげられる。舞台  
が大きいと大道具、照明、音響などは、普段の公演の  
スタッフワークでは賄えない。プランを立てるのは楽  
しいが、実現する段になると苦労も多いし、金もかか  
る。今回、どうにかかろうじて黒字にはなったもの  
の、途中経過では大赤字を覚悟したし、今後の劇団運  
営にも支障が出たらどうしようかと本気で悩んだ時期  
もあった。

反省点は、まだまだ出てくるかもしれない。しか  
し、芝居創りの常、芝居の終わった後の観客の拍手で  
すべては報われる。特に大きな客席からの大きな手拍  
子や、拍手は格別であった。

先日、終演後およそひと月ぶりに集まった、仮称  
スーパー打ち上げには30数名の参加を見た。いまだ  
に余韻に浸っているメンバーもいたし、次の舞台へ向  
かって大忙しのメンバーもいる。

普段、小さな稽古場で粛々と芝居創りをしている  
と、大勢の仲間を感じ本当に力強い想いを再確認し  
た。

多くの人たちとの楽しい芝居創り、多くの出会いを  
提供してくれた青少年センターをはじめ、たくさん  
の人たち、そして参加してくれたたくさんのメンバ  
ーたち、そしてはるばる坂の上の劇場まで足を運んで  
くれた沢山の観客の皆様に 深く深く感謝して、今  
回の神奈川県演劇連盟合同公演の幕を降ろします。  
感謝 感謝！



# 劇団河童座 「EMクラブ」

文：劇団かに座 金谷 陽子

横須賀にあったEMクラブというところが日本のジャズの発祥の地であることを初めて知りました。物語は、戦後間もない時代のそのEMクラブを取り巻く人たちの話で、しかも舞台の横須賀は基地の街という特別な場所です。そこで暮らす人々の複雑な思いや葛藤がどう展開され繰り広げられるのか、また、作者が提言している戦争とテロに対しどのようなメッセージを伝えてくれるのか課題を持ちながら観させて頂きました。

開演前の会場に一步足を踏み入ると緞帳が上がっているステージではピアノの生伴奏にシンガーの生歌が迎えてくれ、これから始まる物語の雰囲気の大いに盛り上げ期待感を高めてくれました。

話は、戦死した夫亡き後、靴磨きで生計を立てている横山家とEMクラブで働く娼婦たちが軸になって進んでいきます。横山家の母アキや戦死した夫をもつ掃除婦達が語る残された者の悲しみや、戦死でも名誉の戦死とそうでない者の違いを訴える女達の言葉には深く胸に迫るものがありました。娼婦達はアメリカに寄り添うことでたくましく生きる姿を見せてくれ敗戦



という傷を乗り越えようとしている強さを感じさせてくれました。

EMクラブのバンドマンが戦死した横山家の夫ヒロさんの曲をEMクラブで発表しようと娘の記憶をたよりに曲の完成に励みます。そこにそれぞれ曰くある登場人物を絡ませ歌やダンスの猛練習を始めます。更には、勝者国であるはずの米兵の苦悩を滲ませつつ、彼をも巻き込み、全員が音楽を通して心を通わせすばらしい発表にこぎつけます。このエンディングのショーは文化の交流、音楽の力こそ国と国を繋ぐ架け橋になるものだと示唆してくれました。作者の戦争もテロもない平和な世界を願う思いが会場いっぱい届いたように演者と観客が一体になってショーに乗っていたように思います。

近年、少年の犯罪による惨たらしい事件が後を絶ちません。「殺してみたかった」「腹が立ったから殺した」等、人の生命をいとも簡単に奪っていく動機の残忍さに恐ろしさを感じます。凶らずもこの劇の中で少女明美が「けんかはいいいけど殺しちゃだめだよ」とさげびます。単純な当たり前なこの言葉こそ人と人を結ぶ最低のルールだととても印象に残った言葉でした。





# 第十二回 神奈川 演劇 博覧会

マグ  
ガル

感じて下さい。  
知らない芝居がある。  
知らない世界がある。

2015年3月21日(土)/22日(日)

会場:神奈川県立青少年センター 多目的プラザ

主催:神奈川県演劇連盟 神奈川演劇博覧会実行委員会

マグガルフェスティバル実行委員会

共催:神奈川県立青少年センター

問合せ:神奈川県演劇連盟 080-5659-2757

E-MAIL:info@kenenren.org

URL:http://kenenren.org

## 第12回 神奈川演劇博覧会

2015年3月21日(土)、3月22日(日)

神奈川県立青少年センター 多目的プラザ

文:神奈川県演劇連盟 副理事長 緑慎一郎

博覧会と名前のつくイベントには何かわくわくする気持ちを感じます。それが自分の好きな演劇の博覧会となれば期待も大きくなります。

僕は神奈川演劇博覧会が大好きです。入場無料・出入り自由で毎年新しい劇団、芝居に出会う文字通り博覧会です。この博覧会に出会い、他の劇団を知り、神奈川県演劇連盟を知り、参加していた団体から運営する側へと立場が変わりました。その大好きな神奈川演劇博覧会も今年で第12回を迎えました。

毎年のように足を運んで下さるお客様に支えられてここまでこられたのだと実感しております。このわくわくがずっと続くように願っています。

今年は9団体がエントリーしました。今年の博覧会を総括する意味で各団体紹介を全て観劇できた僕なりに辛口に紹介してみます。

### 空飛ぶペンギンカンパニー

無人島を舞台にいろいろあるという現実でありそうでなさそうで、いや、ないよな。と思う設定を選んだことに敬意を表しつつ、芝居の結末はまた次回というハリウッド映画の二作目を意識させる販売戦略は個人的には好きではないが、また、観てみようかなと思わせてくれました。この劇団の中心人物である菅原恭子さんと出会ったのはいつだったのだろうか。歳を聞くたびに毎回驚くのだが、それは僕に覚える気がないのか、菅原さんが覚えさせていないのか。それが問題だ。



### 無題



屋敷の中に閉じ込められた男。そこにいる4人の男女。わけありまくりのキャラ設定が観ている者を困惑させてくれます。なぜ4人のうち二人が人形を持っているんだとか、鞆の中身はこっちが思っていた以上に少ないとか。

でも、いいんです。これは非現実の世界。しっかりと役者が伝えてくれましたので。そういえば劇団無題は過去にも演劇博覧会に出ています、その時に参加していた他の団体に僕の劇団がありました。覚えていますか？

### 横浜小劇場

タレントとマネージャーのお互いを探る会話がとても印象的な舞台でした。いろいろなハプニングもありましたがそこよりも何より脚本上の設定年齢はいくつなのだろうか？とそこが頭を駆け巡っております。神奈川県演劇連盟加盟団体の横浜小劇場は今回の参加団体の中では間違いなく平均年齢が高い劇団です。演劇博覧会では過去にリーディングでとても心に響く作品を取り上げてくれていました。これからも宜しくお願いします。





## ナオサク企画



ナオサク企画は50分以内という運営上のルールをちょっとだけ取っ払いました。30分以内、いや10分ぐらいで上演したいと相談され、あとの40分は休憩…?なのかな。とそれは斬新だ!とかも思いましたが、ふと我に返りまして、30分という枠でアフタートークもやっていただきました。芝居のベースにあるのは曲であり、その曲をいかに活かせるのかが役者にかかってくるというとても技量のいるお芝居でした。秋直作さんがやった一回目のアフタートークの司会は無限の荒野に葬っておきます。

## 劇団きさく座

心の中にはもう一人がいる。そんな感覚は誰もがあのですが、実際に出てくるとこんなにも迷惑なものなのかと思えてくるお芝居です。とても華やかな衣装は観ていてとても心地よかったです。きさく座は平塚で活動している劇団で過去には神奈川県演劇連盟にも加盟していただいております。一度離れてもこうやって神奈川県演劇博覧会に参加していただけたことをとても嬉しく思っています。

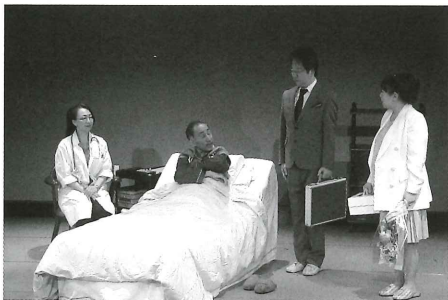


## イケタニ企画



鴻上尚史「トランス」は30代以上の演劇人では皆知っているのではないのでしょうか。僕も大好きです。が、もともと2時間の芝居を博覧会用に50分にぎゅぎゅっと凝縮して上演するという挑戦的な芝居なので心配しておりましたが、役者三人がとても達者で観ている人を惹き付けていました。本当に良い舞台でした。ただ、もとを知っていると思うのですが最後の群読はやはり残して欲しかった、いやむしろ、そこだけで50分を押し切る池谷の心意気が観たかったです。これからも期待しています。

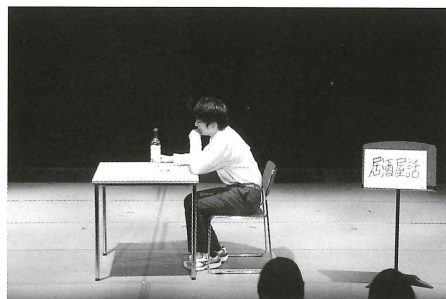
## 劇団 あげ玉



僕はコメディが好きです。書くのもですが、演じるのも好きです。あげ玉の芝居は安楽死という重いテーマをととても楽しい話へと変えてくれました。映像を使ったり視覚的にも楽しく盛り上げていただけました。前回はあげ玉プロデュース。今回は劇団あげ玉。次回は演劇企画あげ玉?とステップアップしていくのか、いかないのか。こんのさんの次回の劇団名に興味津々です。

## 個人劇団スローカーブ

個人劇団。初めて聞く響き、名前でした。あ!その公演毎に役者を集めるスタイルの劇団は多いから作・演出を井上君が行っている劇団なのかな?そういうことかな?とと思っていましたが、本当に個人でした。井上くんは独りで舞台に立ち、独りで舞台を降りました。そこにささやかな拍手を送ります。演劇とは何なのか、それを考えさせてくれる舞台でした。



## 虹の素



青春とは何なのか。甘いのか、ほろ苦いのか。虹の素を観ればわかります。恥ずかしいんです。そう、青春とは恥ずかしいんです!そんな恥ずかしさを惜しげもなく演じてくれる虹の素の役者はみんな大好きです。ただ、思うのです。僕はそういう恥ずかしさを脱ぎ捨てて大人になってきたんだなって、だから、青春プレイバックがとても恥ずかしくて毛が抜けます。神奈川県演劇連盟に加盟した虹の素をこれからも応援していきます。



# マグカル劇場の展開

神奈川県演劇連盟 事務局長 井上学



あらためて「マグカル」とは何なのか？

ウェブサイトを検索するとこうある…“神奈川県が推進する「いのち輝くマグネット神奈川（磁石のように人を引き付ける魅力をもった神奈川を目指す）」の中で、新たに立ち上がる試みが「マグネット・カルチャー（略してマグカル）」。神奈川の文化そのものがマグネットとなって、人を引きつけ、街に魅力と賑わいをもたらすことを目指します”2013年に始まったマグカル、今年で3年目を迎えた。県演連は事業開始当初からマグカル事業のうち青少年センターで開催される「マグカル劇場（マグカルシアター・マグカルフライデー・マグカルハイスクール演劇フェスタ）」の運営事務を担ってきた。試行錯誤だった1年目、広がりを感じられるようになった2年目。そして3年目になってようやく冒頭に引用した「マグカル」本来のありようが実現しつつあると感じている。

指定管理者制度などを批判する中に「3年や5年で交代してしまう制度の中で文化事業などできるものか」という意見がある。制度の是非はさておき、地域の文化が一朝一夕で実現するものではないことは、文化にたずさわる者にとって自明の理だ。

とはいえ、閉鎖的な足踏み状態を続けることもまた、文化の望ましいあり方とはいえない。文化、とりわけ演劇は常に時代や地域を意識した中で表出するものである。翻ってマグカルの2年半。運営事務にたずさわる者として、これまでの展開は新規の文化事業としては悪くない進み方であると感じている。

今年度（とりわけマグカルシアター）の参加団体はいずれもハイレベルな公演を実現している。しかも多くが「若手」といわれるメンバーを含む団体だ。若者の解放区を謳う「マグカル劇場」が求めていた団体である。ふりかえってみる…

4月（5月）のマグカルシアター『夢次元堂』は、多摩美術大学の学生を中心とした新しい劇団で、野田秀樹氏の薫陶を受けているだけに、コトバ遊びと激しい動きを特徴とするエネルギッシュな団体。

5月は県演連にも新規加盟した劇団studio salt。川崎のリンチ殺人やISの活動を思い起こさせるような社会性を感じさせる作品で、見る者に強烈な印象を残した。

6月は横浜で生まれた劇団『820製作所』。ひりひりするような思春期の死生観を詩的な言葉でつむぐとても美しい舞台だった。他団体とはまったく違う向きにステージを設定したのもユニークで、自由に使える多目的プラザの魅力を十分に引き出していた。

7月の1本目は『G/9-Project』。四半世紀の活動歴を持つ団体だけに、安定感があると同時に、チャレンジ精神も失わないのが魅力である。若い俳優の育成にも力を入れているのは「マグカル」の精神にも通じるものを感じる。

2本目は『もじゃへら事情』。神奈川と東京の「劇王」が同じ舞台装置を使って別々の作品を上演するというユニークな公演で。かたやチャップリン暗殺未遂事件を基点に今の社会を写し出す緊密なドラマ。かたやコメディタッチのSFというまったく異なる作風がみられたのは、まさに「一度で二度おいしい」。

新年度がスタートしてまだ4ヶ月にもかかわらず、たまたみかけるように密度の濃い公演が連続したこともあってか、ひとつひとつがすでに懐かしくさえ感じられる。

運営を担う者として、マグカル劇場の今年度の目標を「集客」にしている。“若者の、クオリティの高い公演を、より多くの人に”…マグカルの目指すところを意識すればそんなスローガンになるかもしれない。その3つ目の実現が今年度の目標である。

そのために、年度始めから『マグカル劇場』のFacebookページで、参加団体の稽古場訪問と代表者インタビューを始めた。ひとつの試みである。観客の関心をひくために始めたインタビューだが、結果として地域で活動する演劇人の演劇観や人生観のようなものを相対化することになった。

「神奈川で活動することをどう考えているか」を全団体共通の質問にしている。そこに見える演劇人の志向が、集客を拡大するヒントを内包しているようにも感じる。神奈川でどう活動するのか。参加団体と運営サイドが共通認識の中で模索を始めることができれば、積年の課題はきっと解消する。僕はそう展望している。

さて、夏をはさんで9月からのマグカル劇場はさらに充実したプログラムが揃っている。秋は県演連と青少年センターの共催による「多目的プラザ連続公演」である。『緑慎一郎とミュキーズ』『studio salt』『虹の素』『劇団河童座』…その間に『劇王神奈川』もある。多種多様な舞台のいずれも目が離せない。

「マグカル劇場」は若い演劇人の目標であり登竜門になっている。

かつて、指揮者の井上道義氏は県立音楽堂において若手演奏家を起用したコンサートシリーズ企画し、「上り坂コンサート」と名付けた。

そう、音楽堂も青少年センターも、のぼり坂の頂点にあるのだ。

# 劇団紹介

神奈川県演劇連盟に新規に加盟した劇団を紹介致します。

## YAP

去る2015年6月13・14日、K.A.A.T（神奈川県芸術劇場）にてドリームミュージカル「長くつ下のピッピ」の上演を行いました。参加者・スタッフ合わせて3歳から大人まで、計70名以上が参加しました。このミュージカルは主要キャストを子供たちが務め、約5ヶ月の稽古期間を経てコミュニケーション能力・責任能力の学習、本番の公演に際して多くの人々への芸術・文化的精神の提供を行いました。

この公演は毎年上演を行い、継続的なコミュニケーション機会の提供を追及していきたいと思っております。

私たちの今後の展望といたしましては、上記の活動状況の拡大が最たる優先事項として挙げられます。それは、私たちがなぜこのような活動を行うに至ったかというところ

まで話を遡らせ、「単純に芸術・文化活動を実際に体感することによる人格・精神の成長と楽しさを、より多くの人に経験して欲しい」という理由があるからです。

しかしながら現代の我が国では、文化・芸術活動が社会的に優遇されているとは言い難く、事業として成り立つのは既存の大規模な商業コンテンツばかりであります。私たち「青少年芸術・文化プロモート協会」が目指すのは、芸術・文化活動の普及・促進と、私たちと同じ志を持った人材の支援です。

「芸術・文化活動の素晴らしさをまだ体感していない人々になるべく多く伝えたい。」

「現在よりも芸術・文化活動が人々に身近な存在になってほしい。」

そう願うと同時に、これらを促進する活動を行っていきたくと思っています。

## 神奈川県演劇連盟合同公演 ドリームミュージカル2016 「長くつ下のピッピ -ピッピ虹を渡る-」

担当劇団 YAP

本公演は、今までのドリームミュージカルとは異なり、神奈川県演劇連盟の合同公演として行います。神奈川県演劇連盟のバックアップにより、加盟している劇団の方や、そのお知り合いの方を含めて、規模を拡大しての公演となります。稽古も従来の湘南稽古場から離れ、横浜、川崎の公共施設を使用いたします。公演の劇場も規模が大きくなり、800席の神奈川県立青少年センターホールを使用することとなりました。また、2015ミュージカル「アニー」で主演のアニー役を演じている黒川桃花さん、ミュージカル「レ・ミゼラブル」でリトルコゼット役を演じた黒川胡桃さんの姉妹揃っての出演が決定しております。公演自体は2016年の2月ですが、土日祝日のみを稽古日とする為、秋から稽古が始まります。内容、詳細についての説明会を開催致しますので、是非ともご参加下さい。沢山の方々との出会いを楽しみにしております。

**上演日時：**2016年2月26日(金)・27日(土)・28日(日) 神奈川県立青少年センター・ホール

**オーディション：**10/25(日)横浜近辺会館を予定

**稽古：**11月～日曜・祝日(本番近くには土曜日も入ります)

**月謝：**3,240円(11～2月) 台本代：1,080円 衣装代：3,240円

**チケット代：**2,000円、15枚～30枚予定 配役により割当の枚数が変わります。

### お問合せ・申込み

特定非営利法人 青少年芸術・文化プロモート協会 〒251-0054 神奈川県藤沢市朝日町13-5 ROUTE藤沢2F

TEL：0466-28-6400 FAX：0466-24-5033 Mail：tachibana@yap-npo.org



# 僕らの演劇

## 虹の素

「Arbres D'Hivre」 作・演出：桜木想香／熊手竜久馬  
2014年12月26日～28日 於：ラゾーナ川崎プラザソル

**舞** 台はピアノのある  
カフェ、というよ  
り喫茶店という方がふさ  
わしいかもしれない、  
そんなあたたかみのある  
店。過去に何らかの事情  
をかかえている女主人



と、その周囲の人々の人生と恋愛模様。現在と過去を行き  
来して切なく甘酸っぱい青春物語が進んでいく。

いささか照れくさいようなセリフとどこか懐かしいような  
場面を銜いなく提示するのは、虹の素ならではのいい。  
ピアノ、スイーツ、恋、高校生、妊娠…それぞれが少女  
マンガや青春ドラマのアイコンのようで、手練れになれば  
むしろ避けようとすら思える題材を、真っ向勝負でぶつけ  
てくるのは、むしろ清々しく逆に強い個性さえ感じさせる。  
装置転換のない舞台上、物語の時間を行き来するのは、や  
り方によっては混乱を招くこともあるが、この作品にお  
いては処理は的確で、阪神大震災を想起させる設定も、事  
実をむき出しにせず「もしや」という思いを観客に提示す  
るのに成功している。観客はある意味、騙されるのではあ  
るが、騙されることが心地よく感じるほどの巧みな作劇術  
であった。決して広くない劇場空間を十分に活用し、とり  
わけ高さをうまく使っていたのは、舞台を立体的に見せて  
いて見事であった。

残念なのは、まるで宝塚の銀橋のようなエプロンステー  
ジが、舞台となる喫茶店を客席から分断する形になってい  
たこと。とりわけ、主舞台の足もとが見えないことは、俳優  
の演技の全体像を観客に隠しているように感じられてし  
まった。小劇場とっていい規模の会場で上演する作品と  
しては、小劇場の魅力のひとつである「客席と舞台との一  
体感」を阻害する要因になっていたように感じる。

経験を重ねることは、良くも悪くも知恵や欲を澱のように  
ため込むことでもある。経験としての良き「澱」を財産と  
しつつ、上澄みの透明感を失わずに居続けてほしいと、心  
から願っている。

井上 学

## 劇団やぶさか

「雪の女王／グレイシア」 脚本・演出：海老原あい  
2015年1月17日～18日、23日～25日 於：高架下スタジオSite-D集会場

**最** 初に、劇団やぶさか15周年、おめでとうございます！  
今年、最初の観劇は、劇団やぶさかの公演だった。  
会場が黄金町の高架下ということで、大変興味深かった。  
会場に入ると花や雪を思わせる床の装飾が目に入り、会場  
全体の白や薄青色が、「雪」の世界に連れて行ってくれる。  
中央に柱があり客席数も限られる小さな会場であるが、  
その柱をも旨く使い、かえってこの狭い空間に共感できる。  
御存じ「雪の女王」はテンポがよく、トナカイのそりで走  
るシーンの表現も印象に残った。高架下ということで、通  
過する電車の音は勿論、頭上からかすかに聞こえてくるが、  
展開が良いので全く気にならない。  
多くのモノが知っている作品を、そして作品のファンも多  
いであろう「雪の女王」は、やぶさからしいテンポで成功  
していると思った。気持ち良いまま、続いて「グレイシア」  
の世界へと導かれる。生演奏もよい。



心も表情も全てが白く凍り  
つき、色の無い空間が支配  
する美しい世界。そこでグ  
レイシア「氷河」の名を持  
つ少女が、「人の世界」を  
覗き見ている。そして「人  
の世界」で出会い、体験し

知ってしまったこと…。 「人の世界は、こんなにも色鮮や  
かに、温かい…」 チラシにあった、気になっていたキャッ  
チフレーズだが、この雪の世界の人のみならず、この人間  
世界の人々にも気付いて欲しい言葉だと思った。

柱の向こうから役者が様々なものになってやってくる。最  
後は、スノウ・クイーンがおもい鎖を身にまとい、柱の向  
こうに消えていく。印象的なその展開にときめいた。

脚本、演出が素晴らしい。其々ハマリ役と思った役者の表  
現も、照明、舞台装飾、小道具、そして凝った衣装、全て  
がこの作品世界を作り上げ、この小さな会場にあふれんば  
かりの世界観が伝わってきた。雪や氷の世界のお話なのに、  
温かい気持ちになった。第2弾も楽しみである！

まりこ☆みゅーじあむ 川井眞理子

### 神奈川県演劇連盟加盟団体(50音順)

- 演劇プロデュース『螺旋階段』● 京浜協同劇団● 劇団蒼い群● 劇団河童座● 劇団かに座● 劇団川崎演劇塾
- 劇団こゆるぎ座● 劇団スタジオソルト● 劇団やぶさか● 劇団「横綱チュチュ」● 劇団よこはま壱座● 虹の素● まりこ☆みゅーじあむ
- ミュージカルプロジェクト● YAP 青少年芸術・文化プロモート協会● ヨコスカ・ベアフットシアター● 横浜小劇場

神奈川県演劇連盟HP: <http://kenenren.org/>